

日本書紀傳 廿九卷三

和書
一〇五二號

九十九

| | |
|------|-----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 10522 |
| 冊數 | 156 (104) |
| 函號 | 特 85 1 |

内一〇五二八三號



教部省
文部省
印

南宮
内庫

南宮
内庫

可憐と見えたる其短歌小阿未都知能等母尔比佐斯
 久伊比都夏等許能久斯美多麻志可志家良斯母と有
 をり此小思合す小大國魂神と申奉る其思頼を天
 下小敷布こ給ふ由を兼て大國敷神と申奉れ
 る小て愈別神ふけの御在し坐ざる御事ふむ甚明し
 うある者ありけり此を以て疾路國小御在し坐す大
 小て渡り世給へる其一座ハ大國敷神小て御在し坐
 べり御事を明く奉る可し彼神名式小謂ふ生島
 巫祭神二座並大月次新嘗生島神足島神と見え攝津
 國東生郡難波坐生國國魂神社二座並名神大月次相
 嘗新嘗と有ふ此大國魂神を二神小祀別るる小
 ハ大小深き所以有る御事と思はるる下河百五丁
 小至りて云を併
 世見てありし
 ○顯國玉神此ハ大國玉神の一者也

内一二六八三號

○日本書紀傳二十九

○九十三

可し下小頭此云于都斯と注し古事記小字都志
国玉神と作り備此言ハ四神出生章第十一書十頭
見蒼生此云宇都志根阿烏比等久佐と見え古事記神
名小字都志日金折神と見え中臣壽詞小字都志
国名有少此事ハ已小傳十四百四十注せざる此
小字ハ少ク心得事有少故此神名の起ハし小傳二
十四三十一引て注し奉るハ如く古事記小大已貴神
の御父大神の御所小到坐て出返る世御在し坐ける
御時小追及て大神の詔給へる辞見の御詞ハ其女所
持之生大刀生弓矢以而汝夜兄弟者追状坂之御尾亦

追撥河之瀬而意禮為大國主神亦為宇都志国玉神而
其我之々須世理昆賣為嫡妻而略居是奴也と有て此
時小御父大神より事依し授け聞えさせ給へる御名
あり故思ふ小大國主神と申奉るハ上十三注し奉
る如く天下小在由る国主神の君長と御在し坐て
国土を主領し御在し坐せりあり若て頭国玉神ハ此
小字ハ大國主神の亦名ハ如く有れども凡て某魂神
と申す例ハ上六十一注せし如く其主神の御
在し坐る外より其御功用を輔佐け進て共く小
其御功績を大に為給ふ義ふれば先始小大國主神と

爲れど詔ひて天下の主宰は御在り坐すべき由を事依
し給ひ次小其御魂神をも活用せ給ひて弥高小弥
廣小天下小恩頼を令蒙給ふ其御執を大小爲りし詔
給へりし始て其荒魂神の分れり給ひて大国主
神小副給ふ事此小起りありけり大倭神社注進狀
小倭大国魂神者大已貴神之荒魂與和魂戮力一心經
營天下之地に有り如く國作の御事小於てハ和魂大
物主神よりも殊小荒魂大国魂神の方親しく大国主
神小屬て大造の績を建させ給へり御事ハ御在り
坐せハ大国魂神と顯国玉神とハ唯大字と顯字と言

の撰れりものこ有けり共小荒魂神の御名とあむ
所思しりけり然るハ想て大と推とハ相對へ云例
あり小天孫降臨章小顯国玉之女子下照姫亦名高姫
玉と有て顯国玉神と推国玉神を並て書され又右ハ
下小注せり如く上野国神名帳小大国玉明神若國
玉明神と相對たるを以て此顯国玉神ハ上とあり
大国玉神と相同トくして共小大国主神の荒魂の御
名とて渡りせ給へり御事をあむ見奉り知てり者ハ
あり然るハ其天孫降臨章の事件ハ悉小大已貴神
小抱りし御事あり又其神ハ古事記
小故此大国主神聚坐育形與津宮神多紀理毘賣命生
子阿遲鉏高日子根神次味高比賣命亦名下光比賣命

と有れば大己貴神之女下照姫と云う記さる可
し然有ぬ此小其荒魂の御名を以て書さる故
りも有けり借国に小此大己貴神の亦名を以て祀
らる社も多かりけり此も此頭國玉神に限り然
る事も見えず又此御名にて有る事實は僅に右
の下照姫命の出自を云より外に見えざるは大国魂
神の一神に生 故此頭國玉神は右に引る中臣壽詞に
宇都志國と云事有れば頭國之御魂神の義あり可
誰しと思ふ事小有れば上六十一注せし如く其
大国魂神と申すは大国之御魂神と申す義小坐す
國魂又國御魂と續けて諸國に在り國魂神の君主
小坐す故小大字を冠ふる世奉る小等しく此頭
語の上小置て現在あり意あり事彼推國玉神の御名

と推國に下り無く推の上小冠て大小對入れり小同
卜備此頭を現在の義ありと云り天孫降臨章第二一
書小高皇產靈尊乃選遣二神勅大己貴神曰余聞汝所
言深有其理故更條條而勅之夫汝所治顯露之事宜是
吾孫治之汝則可以治神事略於是大己貴神報曰天神
敕教懇懇如此敢不從命予吾所治顯露事者皇孫當治
吾將退治幽事略と所見たる顯露事是あり此を出雲
神賀詞に大八島國現事顯事令事避支り有は此訓
を菅家名義抄に現事を阿良比登基顯事を阿邪良
未基登と有て現事ハ現入事と云義顯事ハ鮮所見事

云義ハ一々當昔此大國主神ハ一々當今の皇御孫
尊の御有狀多々現人神ハ御在ハ坐テ顯露事ハ所
知食させ御在ハ坐けルハ其顯露ハ國魂神を御めて
其上ハ大國魂神ハ渡る世給ハ謂多クハ此
二名共ハ云以テ往けハ其義ハ歸る者多クハ
備右の現事顯事を故大人等の宇都志事所及波事ハ
訓ルハ古言ハ狀實ハ然有テクハ甚愛ハ
雖ハ強ハ從ハ難クハ侍ルハ右の各義抄ハ訓ハ祝詞
式ハ古點ハ然有けれハ古事ハ所見ハ然
此宇都志ハ云言の義ハ右ハ二訓を以テ説ハ至ル
ハ實ハ神ハ思賜ハ少クハ猶傳ハ四卷顯見蒼生ハ
下ハ注セテ合
見ハ心あり
○大地主神ハ申奉ルハ其荒魂大國
魂神ハ亦名ハ渡る世給ハ事上
七十
三下
且云

如ハ此御名古語拾遺ハ出ハ昔在神代大地主神
管田之日以牛完食田人于時御歳神之子至於其田啜
饗而還以狀告父御歳神發怒以蝗放其田苗葉忽枯損
似篠竹於是大地主神令片巫志止鳥眩巫今俗竈輪占求
其由御歳神為宗略下所見ハ是此大地主神ハ御歳
神ハ深ク御因縁御在ハ坐テ由多ク事此亦上
七十
九下
已ハ注セテ大倭神社註進狀ハ傳聞倭大國魂神者
大己貴神之荒魂與和魂戮力一心經營天下之地建得
大造之績在大倭豊秋津國守國家因以号曰倭大國魂
神亦曰大地主神以八尺瓊為神体奉齋焉ハ亦名多ク

事、著明、其大地主神、申、所以、同狀、
載、垂仁天皇二十五年、御紀、の細註、一云、天皇、以、倭
姫命、為、御杖、貢奉、於、天照太神、鎮座、於、磯城、嚴、擢、之本、而
祠之、然後、隨、神、誨、取、丁巳年、冬、十月、甲子、遷、于、伊勢、國、渡
遇宮、是、時、倭、大神、著、穗、積、臣、遠、祖、大、水、口、宿、祚、而、誨、之、曰
太初、之、時期、曰、天照太神、悉、治、天原、皇、御孫、尊、專、治、葦原
中國、之、八十、魂、神、我、親、治、大、地、官、者、言、已、訖、焉、然、先、皇、御
間、城、天、皇、雖、祭、祀、神、祇、微、細、未、探、其、源、根、以、粗、留、於、枝、葉
故、其、天、皇、壽、命、短、命、也、是、以、今、汝、御孫、尊、悔、先、皇、之、不、及
而、慎、祭、則、汝、尊、壽、命、延、長、復、天、下、太、平、矣、略、と、見、え、也、

を同狀少、異、同、有、中、小引少、異、同、有、中、小我親治大地官者言訖焉云云大地
主神之号起于是時矣、有、是、小、大地主神、所以
詳、小、事、也、知、水、口、之、以、此、小、皇、御孫、尊、治、葦原
中國、之、八十、魂、神、上、三、十、下、小、注、云、如、天神地祇、を
申、中、小、小、殊、小、八十、國、魂、神、を、專、に、祭、祀、せ、給、
ふ、可、き、由、を、其、回、避、の、御、時、小、天、上、小、の、期、を、聞、え、さ、せ
給、へ、御、事、を、此、小、倭、大神、の、誨、奉、り、給、へ、さ、り
先、皇、御、間、城、天、皇、雖、祭、祀、神、祇、微、細、未、探、其、根、以、粗、留、於
枝、葉、に、有、宗、神、天、皇、八、年、御、紀、小、乃、卜、使、物、部、連、祖、伊
香、色、雄、為、神、班、物、者、吉、之、又、卜、復、祭、祀、神、不、吉、十、一、月、丁

卯朔己卯命伊香色雄而以物部八十手所作祭神之物
即以大田田根子爲祭大物主大神之主又以長尾市爲
祭大國魂神之主然後上祭他神吉爲便別祭八十萬群
神仍定天社國社及神地神戶有之此御事を詔給へ
とあり此御詔の意ハ大物主神大國魂神を以て且
祭とせ給ひ天社國社を定めさせ給へりと雖も其專
と治めさせ給ふ可き八十魂神ハ租々小爲て其枝
葉と有、神祇の祭祀を物爲させ給へるが故に猶其
事を盡させ給はざるを以て國神の守護無くして御
壽命の長延く御在り坐ざりし由あり是即今古共小

産土神を祭る事の故實あり者あり
任せて祇園社ハ幡宮とを始として其地ハ御在り
坐す神祇を産土神と心得る事ハ有らば其元由
一國一村の上下於ても其地ハ功有る神即其産土神
一令祇園社ハ幡宮の如きも産土神と爲り祭る意味
ハ右の如くして是謂ゆる八十魂神の御事ありを
都美神乃浦佐備而荒有京見者悲毛と有るが如く國
都御神の御心荒び坐時ハ天皇の皇宮に申せし荒
行せ給ふ御事と所見て甚可畏く御在り坐す御事を
知てし右の倭大神の此御詔ハ如此く深き所以有る
右の八十魂神を唯ハ天神地祇を申
ありと云ハ甚く租々説あり故此倭大神の我
親治大地官有る大地官を私記ハ於保津知津加左
と訓るハ決りて古訓ありて傳十六
二百四
十一丁
注せ

るが如く古事記小大土神亦名土之御祖神と見え神
名式小伊勢国度會郡大土御祖神社を申す神名有
を記傳小大ハ土小係るハ非ず此神小係る美祢亦
ハ万葉土ハ小大地土採雖盡て有る此ハ土小就たる
大あれハ此ハ異あり云ハたる意味大ハ在て此
大地官と有る大ハ天地下ハ在ヤ土地官を經る謂是
あり儲地官と云ハ地主と云義小等ハ事ハ見えて
此下文小大地主神之号起于是時矣云書せり然る時
ハ此ハ意富都知奴斯ハ訓ハ事相照して知べし若
て其官を都加佐ハ訓座仁天皇ハ事ハ造長ツクリヲサと云義あり此ハ地官

と云ハ其地を造て其處ハ長と有る謂して即右のハ
十魂神ありて大國魂神の属官の神等と云ハ此を紡領
ハ給ふ故ハ大地主神とハ申せるあり故其地官ハ地
主神ありと云事ハ上四十六下六小注るが如く諸國ありて國
神社として多く有ハ口訣ハ國神猶言地主也と有る是
あり中小猶親ハ地主神ハ申せる事有り先朝廷の
御事ハ坐摩を是大宮地之靈と申す由古語拾遺遺ハ見
え齋宮式在齋宮内大社十七座の中ハ地主神と有ハ
其宮地の靈を祀りて給へるあり神宮ありてハ右小注
せる大土御祖神社御在ハ坐を度會宮ありてハ儀式帳

六月例小十七日即更宮地神ル神酒一缶供奉と有ハ
世記小見えたる土御祖神二座小渡りせ給へるを後
小宮号を進りて土宮と申せり長秋記小彼外宮地
主神也と有る是あは由傳廿六二百四十三丁小注らが如
又其百六十九丁あも云々日吉ありて大宮ハ大己貴神
小御在り坐て謂ゆる大比叡神の坐を二宮の小比叡
神ハ山末之大主神と申して神代よりの地主ありて渡
りせ給ふが故小大地主神と申奉り又今思出ら一二
を舉申さバ神社啓蒙石清水八幡宮條小狩尾神社舊
記云件神石清水地主也即大國玉命と見え大江匡房

卿記小賀茂大神者日本地主神也と有ハ御祖社小御
在り坐す大己貴神の御事あるを社説小比良本社所
祭當所地主神也と有が如く其社地小就てハ地主神
と申す別小在り餘社の事も此ハ准りて知べし此
ハ神社小も限らず寺院ありても官舎ありても何ありても
各其地主神ハ有るを其を統領給ふ神小渡りせ給ふが
故小大地主神とハ申奉りあり筑後國神名帳小山
門郡天下地主神と申す御名の有るも全此神の天下の
地主神を混こ齋しと爲て御在り坐す義あるをも明
む可くあむ有ける諸右の靈御孫尊專治葦原中國之八十魂神と有ハ此地官神を祭る

せ給ふ御事を申し我親治大地官に宣へるハ件のハ
十魂神を制馭させ給ふむとあり然るを此大地官を
大己貴神の幽事治しめ其下風小立給ふ幽官を云
ふありあむ心得るハ甚トと強説ありけり
證ハ八十魂神を指萬民而言と云ハ文義を照應已
て見ゆれさり故ハ粗粗説あり大地官を所謂國
魂之義也小侍徒歌八島守國津御神尔祈來互十歳波
君我心奈利介利國津御神即地祇謂大己貴命也
されし然すか小 諸此天地主神をバ大土主神と訓
谷川大人ありけり 奉る可き證己小右小注るが如し此小就て又思へる
くハ傳サ六二百四十一丁 小己小も注るを右小舉たる古事
記大年神の御子大土神亦名土之御祖神と出たるハ
此大地主神と御力を合せ御在り坐す神あり可く
む事此神の御社を皇太神宮儀式帳管度會郡四十社

の中ハ大土神社一處称國生神兒大國玉命次水佐
良比賣命佐之良比賣命形石坐倭姫内親王定祝と有
る此を神名式ハ大土御祖神社と有り諸其國生
神ハ此ありハ素戔嗚尊小當りて大國玉命の御父小
御在り坐す由あり若て此ハ女神を先小舉る事ハ全
く大國玉神と佐之良比賣神命とを祀れりありて却り
て水佐之良比古命ハ從祀テドと成給へるあり可し伊勢
風土記天日別命の覓國の事を書せり小爰大國玉神
資弥豆佐之良比賣命參來り有て水佐之良比古命の
御事を云ざりハ此即素戔嗚大神小御在り坐て其時

小出會給へり神少てハ御在り坐ざればあり然して
 此佐三良比賣命ハ傳記小與素戔鳴尊合カ座給也
 云ハ大被詞小根國底之國^ル坐速佐須良比咩^止云神
 有り尾崎神社記小土藏靈賣^{コモツムナ}と出たれば根國小御
 在り坐つても顯國を持たせ給ふ謂あり可く思ゆれ
 其大土御祖神と申すハ決く此神ありあり大國玉
 神の大地主神と坐し御力を副給ふ可く由有て此
 小並給へると所思いければ若くハ古事記小已く大
 國御魂神を大年神の御子と誤り小等しく此大土
 神亦名土之御祖神と有る誤れ傳ありあり有つ

△地主と云字ハ
 裁判至西杵杵荒
 地經官司可請
 問事條小引る
 弘仁十年十月
 五日拾ふ以問經
 之人永爲地主
 と有る此小似著
 てが思ゆる備
 此地主の

小め此大地主神と申すハ地下根底迄を係て其主宰
 小渡りせ給へれば大土御祖神也地下根底あり此大
 地の全を相與共小有たせ御在り坐べき御事申すも
 更なれば甚妙小奇しき理あり有る者ぞ一此備
 地主神の訓を古語拾遺小大國主神の如く訓い又一
 本小大處主神の如く訓たれども當りず又平由史小
 ハ地主を登許奴斯と訓たり然れども松記小大地官
 を於保都津知津加佐と云ふ明文有る上ハ取べき小
 非ず其ハ臨時祭式小鎮土公祭御川水祭鎮新官地祭
 と云有て其土公ハ地主神也鎮祭とせ給ふ御政あり
 小倭姬命世記小興玉神無寶殿云是土公氏遠祖神
 五十鈴原地主神也と書せら此興玉神ハ地主神小御
 在り坐小依て此を齋祀ら氏人を宇治土公と云るも
 地主神と土公神とも申せればあり然る時ハ愈以て
 大地主神ハ大土主神の如く
 唱奉る可き事灼然とく
 ○大國魂神の大地官を

治め御在り坐て國土を守護り御在り坐す亦名を生
島神足島神と生國神足國神と申し又生國魂
神或生國玉比古神咲國魂神稱奉る御事あり其ハ上六下十小注
ハ如く古語拾遺神武天皇段爰仰從皇天二祖之語建
樹神籬と有る中小生島と是大八洲之靈今生島巫所
奉齋也と有る是あり是大八洲之靈と注せるハ大倭
神社注進狀ハ在大倭豐秋津國守國家因以号曰倭大
國魂神亦曰大地主神と有ると同ト意味あり又神名式
小謂ゆる攝津國東生郡生國國魂一本作生國魂神社二座並
神大月次相嘗新嘗ハ朝野群載ハ所見たる生島高神之地ハ御

在り坐あり小因て此ハ生島足島神ありて渡りせ給ふ
御事著きと西宮記ハ今日生玉と所見たるハ當昔ハ
も己小今の唱の如く生國魂神を略きて生玉神と也
申せるありけり又越中國射水郡氣多神社を一宮記
ハ大己貴命と書せるハ然る言あり小頭注ハ社記
云天活玉命と有ハ殊ハ床ト傳ありを此ハ天神本
紀供奉三十二神の中あり天活玉命と事の混れたり
一者ありて天字衍あり生玉命と云事ありて生國魂
命と申す御名の略ありたるありて此大國魂神の御事
あり可き事申すも更あり但大己貴命と申すあり其
荒魂大國魂神との違ハ有

と云へども同神の御上あり然て有ぬ可きあり又
式あり能登國羽咋郡氣多神社名神大を一宮記ハ
大己貴命と有を考信閣一本ハ天活玉命と書一
元亨釋書便蒙ハ祭神有二説或曰大己貴命或天活月
命と云々目ハ玉の誤りて此ありて天活玉命と云説
の右つら合せて考ふ可き者あり又紀伊國名草郡
志磨神社名神大ハ傳十五卷四百二十四下廿八卷百
十八下ハ注ハ如く祭神中津島姫命ハ渡りせ給へ
ルハ其相殿ハ大國主神と御在ハ坐べキハ生國
魂神と由名勝圖會ハ云ハ此ハ其本体ハ荒魂との
別ありハ彼供奉三十二神の中ハ天活玉命新田部直
等祖と有ガ如キ大なる誤相違有ハ非ズ然ルハ右
の天活玉命の天ハ衍ありて儲神名式(式)宮中所祭神廿
本より其ハ別ありり
六座の中小生島坐祭神二座 並大月 次新嘗 生島神足島神と
所見たり是其宗社ハ御在ハ坐めり此御神の御事ハ
一も右ハ引るガ如く古語拾遺の文ハ據ハ神武天皇

即位の初年ハ當りて畝火檀原宮ハ於て初て天津神
籬を建樹て齋奉りせ給へるガ如ク然ハ小文ハ爰仰
從皇天二祖之詔と所見たりハ其より以前ハ行ハせ
奉給い來れハ高千穂宮の舊儀を此ハ移りて此大御
政の初ハ先此御事より起立させ御在ハ坐けるあり
けり然ハ其祈年月次等祭詞ハ高天原 ハ 神留坐皇
睦神漏伎命神漏弥命以天社國社登稱辭竟奉り有ハ
皇祖天神の大御命を直ハ受賜ハ奉りせ給へる天
孫の此顯國ハ天降り御在ハ坐ける始より天神地祇
の大御政祭をハ御言の任ハ取行ハせ給い來り御事

を申せりあり復小遠く神代を三御世共小徒然小過
させ御在り坐り御事を此御世小至り初り興起させ
給へり云義小ハ非ずあり有けり儲上六十小大倭
神社注進狀を引り注せり即崇神天皇六年御紀小
先是天照大神倭大國魂二神並祭於天皇大殿之内然
畏其神勢共住不安故以天照大神託豐鍬入姬命中略亦
以日本大國魂神託淳名城入姬命令祭下略所見たり
天照大神と申すハ謂ゆる八咫鏡草薙劍小坐す大御
靈の御事小御在り坐けり古語拾遺小至于磯城瑞
垣朝漸畏神威同殿不安故更令齋部氏率石凝姥神裔

天目一箇神裔二氏更鑄鏡造劍以為護身御靈是今踐
祚之日所獻神靈鏡劍也有也此時小高天原より傳
ハたり御をハ豐耜入姬命小託り磯城神籬を立り
別處小令齋奉給ひ宮中ハ其御圖象を摸造りて在
り時の如く持齋らせ御在り坐けりあり此御時已小
傳サ一五十小注下カ如一然一て此大國魂神の御靈
實ハ注進狀小以八尺瓊為神体奉齋焉有也此ハ天
孫降臨章第二一書小即躬披瑞之八坂瓊而長隱者矣
之所見たり此御物ありと彼經津主武甕槌二神を
て天上小獻りせ給ひけり小天璽小副り天孫小授奉

とせ給へるを此も天皇の同大殿の内小持齋奉らせ
給へる御物あり其を淳名城入姫命小託て出
奉らせ給ふ不就てハ宮中小其御摸造を留めしれ
別小御巫を以て傳ふ奉らせ給へるふて此即生島神
を被祭り起り生島巫の始あり可事右の天照太神
の御小准りハ知べき者あり偕此小生島神足島神と
稱別させ給へるれども其大國魂神一神也の御事少
渡らせ給へる事大倭神社注進狀小天國魂神亦曰大
地主神と有て此も一座とい爲るれども二靈を
並祀しと趣ありハ然る物少て右九十一小注せり

如く淡路國三原郡大和國魂神社名神也其祭る所二
座ありて阿波國美馬郡倭大國魂神大國敷神社二座
と事の相同トキ狀ありを併せて此並祀る小所由有
を知べきあり先ハ生島神足島神と稱奉らせ給へ
る一柱ハ右の如く大國魂神少て御在
り坐し一柱ハ八千戈神あり御在り坐し思ひ
しれども猶非りけり此ハ古語拾遺ハ是大八洲之靈
と有て其大國魂神と申す御靈を祀らせ給へるの
ありけりハ八千戈神あり且ても係りざり御事あり
けり此ハ其大國魂神と申す大を換て生國魂神足國
魂神と申せり坐國神足國神とも申し又生島神足
島神とも稱奉る其生島神祈年月次祭詞ハ云く生島
能御來能辭竟奉皇神等能前亦白又生國足國登御名者
白能辭竟奉者皇神能敷坐島能八十島者谷蠨能狹度

極鹽沫能留限狹國者廣久峻國者平久島能八十鳥墜
事無皇神等能依左志奉故皇御孫命能宇豆乃幣帛字稱
辞竟奉久宣登所見久此事久已久祝詞講義久注せ
らる事實を此久令知む為久少久其中久抄出久示
さば生國足國登御名者白久其正身久大國魂神久
申奉久一神久て渡久せ給へれども如此稱別奉久所
以を始久此久先述久由久あり偕生島神久又久生國神久
申久足島神久又久足國神久稱奉久生久此國土久の生活イキミ
あり有久由久あり足久此國土久の具足スグトクへ久謂久ありありて
此久大國魂神久の大地官久を治めて國土久小恩頼久を幸給

へ御功用を稱奉れりあり故其生國久云久古事記
小於是天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那義命美二柱神
修理固成是多陀用幣流之國賜天沼彘而言依也久所
見久多陀用幣流之國久云久一事ありて此久多陀用
幣流久云久時久誰久も知れり如く國土久の未出來定久ぞ
り久以前の事ありとも其出來定れり上あり猶多陀
用幣流之國ありが故久其二柱御祖神久小繼久素戔嗚
大神御在久坐久國引坐神久も建邦之神久も申奉久
御功業を成久給ひ又久此其大神久より依久され奉給ひて大
國主神久御在久坐久小殊久小國土經營の御事久於てハ

其荒魂大國魂神が擢て其御功用を輔相奉らせ給ひ
大造の績を達させ御在り坐けるハ實ハ其多陀用幣
流之國を生活して足國に成させ御在り坐りて天地
と共に終る事無く盡く事無ク大なる御成業ありて渡
りせ御在り坐あり下ハ狹國者廣久峻國者平久云
事の有ハ照し見てハ大ハ得る所有あり者ありり
一又生國魂神にも申奉れりハ足國魂神にも申奉る其
對の御名必御在り坐へり御事あり下百十ハ注せ
りが如く咲國魂神にも申奉る事ハ咲ハ幸あり其大地
官を治めて生活せ給へり國を眞福く令在給へり由

ある事申すも更ありり然ハ此ハ常ハ生日乃足
生足と同一の事ありり此國土の大なる物ハ死生の理
有を知べり證文あり右の多陀用幣流之國ハ其漂蕩
ふ任ハ措く時ハ死物あり修理固成ハ即生ハ足ハす
事あり由己ハ傳七卷ハ委ハ注せり如ハ万葉十
六卷ハ鯨魚取海哉死爲流山哉死爲流死者許曾海者
潮干而山者枯爲礼云々ハ戲歌ありり此意味無ハ
非ハ皇神能敷坐ハ上九十ハ注るが如く此神の大地
の皆ハ盡ハ統領御在り坐て恩頼を遍く敷布りり
御在り坐す謂りて亦名を大國敷神とも稱奉る所以
此ハ在り御事あり島能八十島者ハ鎮火祭詞小國能
八十國島能八十島と有る其一を略けるあがり意ハ
同ト事ありて皇大御國を始りりて四夷ハ蠻をも併せ

云ふ古名あり然れば倭大國魂神ニ申一大八洲
之靈ニハ申せども云意ハ全体の大地ハ係れざるを世
の始ハ猶此大八洲國のニ先立て國形ハ成整へし
ガバ此皇大御國の號を以て稱奉れざるあり有れ往
ニ大地万國を開き給へるも此神ハ渡りて給へる
カ故ハ注進狀ハ因以号曰倭大國魂神亦曰大地主神
ニ有て其文法ハ大小用意有る事をあむ知べし
ハ谷能狹度極ハ次あり峻國者平久ハ應りて此ハ
万葉五七ハ小阿麻久毛能牟迦夫周伎波美多尔具久能
佐和多流伎波美六二十ハ山彦乃將應極谷潜乃狹度
五下

極ありも有て山谷の限り至る限無く造り平ナリして
平坦あり地の多く成行くを云ふあり鹽沫乃留限利ハ
次あり狹國者廣久ニ云ハ且りて此八洲起元章ハ處
ニ小島皆是潮沫凝成者矣と見えたる其事あり潮沫
の疑留りて國土の廣り成行を云ふあり右等ハ何れも
此皇大御國の上ハ非ハずして大地万國ハ悉くハ係
る事共ありて狹國を廣く峻國を平けく作固めさせ
給ふ此即國土を生活し足成して真福く持ち御在り
坐す謂りて生島足島神と稱奉る謂ハ所以あるを思ふ
可くありむ有けり
此事己ハ傳六卷百五十八下ハ委
く注を見ら可一右の鹽沫乃留限

今備此島一沫能留
限云由右注
世々如く此
就て海神御
を合せ給ふ
思ゆ申有少
下百七丁云
小此倭大國魂
申すも更あり
足島神を其海
神の御子孫を
て今祭給ふ必
深き致有ぬ可
御事あり

利云云唯小大地ハ海を以て環らす物あり故ハ
然云ありと云めり説あじハ右の等の文意を深くも
味ハ不事能ハざる者ありて島乃八十島陽事無久皇
神等寄奉故ハ上小皇神ヲ敷坐島乃八十島者ト有と
兼たろ少て皇神の敷坐島乃八十島を皇御孫尊ハ
寄せ奉らせ給ふ由あり故古の御世ニハ天皇の
御世継の始ハ必八十島祭ト云事をあむ物為させ
御在ー坐けり臨時祭式ハ八十島祭神中宮云云東宮ハ
十島祭中住吉神四座大依羅神四座海神二座垂水神
二座住道神二座中略右八十島祭御巫生島巫并史一人
御琴彈一人神部二人及内侍一人内藏属一人舍人二

今上件ハ何れハ海神
の支族小御在坐
小此八十島祭共ハ
預給へり下百七
云々ハ此大國魂
神ハ天和宿禰更
あり安曇八代等
を以て今祭給へ
りハ己小傳ナニ
サ三百十ハ注カ
カ御又素戔嗚
神ノ荒魂ハ海神
小御在坐其神
此大國魂神ノ荒
魂大國魂神ノ荒
親ノ荒魂ハ小ハ
以テ縁ありハ所
以の有けるハ傍

人赴難波湖祭之と所見たる此ハ生島足島神を難波
湖小於て今祭給へり小住吉以下五社の神等も共ハ
預給へりあり其難波湖と云ハ袖中抄小代初ハ八十
島の使と云事或物云風土記云堀江の東ハ澤有り廣
サ三四町許名をバ八十頭島ト云ハ下略と見えたりハ
謂ゆる生國國魂神社の舊地あり今の大坂城より
ハ東ハ古大和川とて流れたる其即難波堀江ありけ
りハ其地を云あり若て次引西宮記ハ三日潔齋之今日生
玉と所見たれば京より下著て先其難波坐生國國魂
神社ありて潔齋して然後小其祭ハ赴く事と見ゆ又

其袖中抄小代初あが八十島の使にて内の御女の殿
等八十島巡り云事ハ侍北其島に於て被す可きを
住吉の濱の此方より西海に向ひて諸の島の神を
祭ると云り有て後ハ難波湖ありぬ海濱に於て被祭
し事と所見たり偕此祭の故實ハ御代の初ハ生
島巫を遣ハして難波大社に向ハし此ハ三日潔齋
して其湖中小在ゆハ八十島を以て天下小在と有る
國の八十國島の八十島小象りて其國ニ島ニハ坐し
謂ゆ大地宮ニ御在坐す其
坐す國魂神を令祭て其皇神等の敷坐す國ニ寄奉る
せ給へるを受奉るせ給ふ儀式あり事右の引る祝詞

の文小合せ考へて曉る可し此事委しくハ其講義ハ
注せねば就て見へりあり攝津志ハ生島祠在河邊郡
栗山村相傳此地嘗爲生島神祭田故有此祠と所見た
るハ其神封の地ありありけり神階ハ清和天皇實
録小貞觀元年正月廿七日甲申奉授神祇官無位生島
神足島神並從四位上同二年二月十一日丁酉授神祇
官從四位上生島神足島神並正四位下と所見たり又
時祭式小凡御巫御門巫生島巫各一人其中宮東宮唯
有御巫各一人取底女堪事荒之但考選准散事官人
右て其生島神足島神小御巫女各一人を附置れ中宮
東宮よりハ二神を相兼て各一人宛奉りて給へる
ありて甚止事無き御會釋あり物り古ハ此大國魂神
を大殿の内より齋奉りて給へり甚下き御狀ハ

又釋述義引る小

似てしも非ぬだふ鬱悒一を終小ハ八十島祭の事
止ミ其神社の絶果させ給へる甚も可畏き
御事ありける此大神の寄奉らせ給へる海表の諸部
ハ古小ハ御奴國ありを後小ハ等同の御持成り
成り今ハ外蕃諸夷小頸根突く許小御國体の衰へ
せ給へる小就ても思合せく事無小ハ非ず
む有ける傳サ六卷九十三丁又神名式小攝津國東生
園韓神の下をも見合す可一並大月次と有々一本相嘗新嘗
郡難波坐生國魂神社二座並大月次と有々一本相嘗新嘗
生國咲國魂神社と有並大月次云べ一臨時祭式名神祭
式小ハ難波生國魂神社二座と載るたるを其相嘗
祭又祈雨神祭式小ハ難波大社二座と有る此を以て
古小甚く隆坐一御事を想像り奉り可一孝徳天皇前
紀輕神道の本註小割生國魂社樹之類是也と有る

又生并神福并神
称奉る

古くより咲國魂神の御名を略して申習ハ一とあり
けり祭神を神社本記ハ大國三命と有然事と
けりハ十此ハ上三丁注ハ十ヒハ十如く生島足島神と
同小大國魂神を稱別奉りし御名と申奉
る對小ハ必足國魂神と申奉る御名ハ必御在し坐つ
るむを傳りぬ小こりハ有けぬ故其咲國魂神と申
すハ足國魂神ハ一名ありし生と咲と對入る例ハ
古事記神名小活玉前玉比賣神と申す御名御在し坐
せば咲國魂神と申奉る御名あり必御在し坐べし御
事ありける一傳此咲ハ福又榮り義ありし万葉ハ五
下小皇神能伊都久志吉國言靈能佐吉播布國等十三

十 小葦原水捷國者神在隨事舉不為國雖然許舉叙吾
為言幸真福座跡急無福由座者略下有及歌小志
貴島倭國者事靈之所佐國叙真福在與久と有い何此
と言靈の事小就て云ふが國の事小も係て福り
由小云取れり又七十四小靱懸流伴雄廣伎大伴尔
國將榮常月者照良思十八二十小御食國省波左可延
年物能等と有る國小榮也と云る是あり斯る時ハ
生國小對て咲國と申すむ事ハ實小有特欲稱名
小ふむ御在坐けり 又其策あり物ハ足具ふ義
魂ハ幸國魂小作りて見ルハ是克知る事あり
祖右ハ生國魂神の對ハ足國魂神と申す御名必

二百七十五 運分
此大和坐國魂神林向
ト木住氏仕奉り小ハ
別地小大和連神和津
命上世孫物足屋
後也と有る思合上
又九海連所是火倉連
物足直多と有る共海
神ハ出たてり
小引時今式八十良
住古神神坐火寺
三社海神等坐一火
依羅月神小坐事傳
十卷四百三十一住道
素多高尊と有る由傳
三卷三百三十一小坐
見合可事共上

御在坐べりむを今傳ハ神階の御事ハ清和天皇
御在坐べりむを今傳ハ神階の御事ハ清和天皇
實錄小貞觀元年正月廿七日甲申奉授捷津國從五位
上勲八等難波生國魂神從四位下と有る右小引る神
祇官の生島足島神の同階小御在坐ハ其同神
坐せハある可 備此地ハ古小生島高神之地
云て高津と云り此より出たる由ある上小此天降
臨章小顯目玉之女子下照姬 亦名高姬亦 有る可葉
三二下小久方乃天之探女之石船乃泊師高津者淺尔
家留香裳と有る其時の古跡と思し地ありけりハ
仁德天皇ハ此小大宮所定めさせ御在坐けり以前

より其八十島祭ハハ此湖ハ被行来ウケル其
遷都ノ度亦小持移セ給ハ御定マテ此大宮小
本より生島足島神社を此小祭セ給ヒツモ其後
の遷都ハ其二神をハ外小共小移奉ルレリト
件ノ八十島祭ハ此小被行ル地アリケルハ
即御社ハ此小定マセ給ヘリアリケリ其神祇官
ト別社アリメ證ハ右小引テ臨時祭式八十島祭條
小先此神社をコリハ最初小舉ル可キ小住吉大依
羅海神岳水住道等ノ五社を載ルレタリケリ
彼生島足島神ト此生國咲國魂神トハ別神ハ御

一 在坐共小其八十島祭ハ主ト預セ給小御
神ヲ渡セ給ヘルアリケリ西宮記小應和四年
八月廿一日遣天文博士保憲藏人輔成等於難波湖被
修海若革命年可被行祭也云云三日潔齋之今日生玉
ト有テ其八十島祭ノ潔齋を當社少テ物爲テ然後小
其祭小就を以テも著明キ事アリケリ一偕此社地イサ今
大坂城の内 郭小在ケル今地小移奉リテより其
所を生玉ト云レドモ其ハ僅小二百餘年ノ事アリ生
玉社家記小嘗云明應年中本願寺僧來此所而創寺院
以神地接境内兵依斯神惡不潔討彼僧也于時懷神殿

海若革命ト云
事小就テ思
レハ生玉社
神名帳山陽道
部小岳水大明
神ト云事有リ
右の岳水ハ神名
式ヲ撰磨國明
石郡海神社三
座並各神大ト
有リ是ナリ
余ノ二神式ヲ見
テズ此此三座
ノ中一座ハ海神
ハ生島足島
神を係セ祀レ
ル者ナリ然
ル時ハ八十島祭
小就テも愈以
由有リ備具
生玉ノ

八傳廿卷二百四
了小注り如く

造替之宿禰而令神主藤原吉勝告願辞也數日後起寐
床遂奉遷替神殿其後信長兵燹之日殿閣悉為灰燼纔
以神璽遷別處慶長年中秀吉築城郭之序遷今神地
云云と云り又當郡小比賣許曾神名社神大月次相嘗
速雄神社和名枚郷名小味原と有ハ風土記小此神の
御在り坐けり依て元ハ味鉦山と云けり後小然
云由見元又西成郡坐摩神社大月次新嘗ハ御井神
を本として祀れり事上ハ十三丁小注せり如く小
了神代より以降甚止事無き所以の御在り坐て鎮給
へハ神等あり渡り給へりけり又東生の即名
ハ賀茂翁説小生ハ伊久と訓べくして此神小因り
あり由小云わたりハ然り事あり物り仁徳天皇御
世小此地小都敷給へり一より始て生島神を宮中小
て祭り給へり者と思ひたりハ此神ハ大國魂神を
稱別りたり事と思ひ又神名式小和泉國大島郡生
比漏されたりありけり

合尾陸國本國神名帳
神主即從生島天
神中も御在り坐り

國神社歟此も右の生島足島神小同ト事祝詞小生
國足國登御名者白也と有て灼然一同郡開口神社
御在り坐を住古舊記小開口大明神者伊妹諾尊御子
事勝國勝長狹也後合祭生玉明神午頭天皇為住古之
外宮故朝廷二十年一度毎造替住古社當社亦造替元
開口村水戸村原村之間也故号俗三村大明神と有て此
小其生玉明神を合祭りハ其住古神の御在り坐す攝
津國の方の國魂神小御在り坐を以あり可一又神名
式小信濃國小縣郡生島足島神社二座名神此御社の
御事更小考ふ可り便亘無一今強て思ふ小和名枚郷

名小縣郡海部安未無倍有を姓氏録右京神別小凡海連
海神綿積命男穗高見命之後也見え其小合せて神
名式小安曇郡穗高神社名神大坐ねハ若くハ此氏人の
齋祀ねハ小非トク然ハ上九十小注リガ如ク淡
路國三原郡大和國魂神社名神大今八太村ト云小立せ
給へハ和名抄郷名小謂ゆハ幡多波多是あり同録小
八太造和多罪豐玉彦命兒布留多麻命之後也ト有テ
其出自右小同トト其重小倭八太神知津彦命也ト見えて出自ハ異リテ自ハ八太あり又阿波國美馬郡倭大國玉神大國
敷神社二座御在ト坐ハ小名方郡和多都美豐玉比
賣神社坐ト又三代格小阿波國安曇郡ト云ト有テ由

神武天皇御紀不詳
中推根津彦命の
事トシテ海神の外曾
孫ナリ

有げあり事あり小彼崇神天皇七年御紀小以市磯長
尾市爲祭倭大國魂神之主ト有リ其人を垂仁天皇二
十五年御紀の細書ハハ大倭直祖長尾市ト所見ナリ
を姓氏録大和國神別地祇小大和宿禰出自神知津彦命下略
有リ此公皇孫本紀鷓鴣草不合尊の御名を擧テ次武位
起命大和國造等祖ト見え國造本紀小吾是皇祖彦火火出見
尊孫推根津彦ト名乗申せる事有ハハ受張ナリ天孫
あり小姓氏録小地祇部海神の裔ト共小被收ナリを以思ふ小此ハ
故有テ海神の方小属テ古ヨリ天孫小ハ被收ガハ
故小海神の子孫の列小相加ハリけむト其氏族の

殊小親くくろハ有けり然る故小大和宿禰の齋奉
る神い其海神の齋つても仕奉りけむ其生國魂神
社の立せ給へる難波小安曇の地有り又姓氏録攝津
祇小大和連い海連阿曇犬養連等の有とも思合す可
く又淡路國大和國魂神社大ハ大造梅大共小由有り阿波國倭
大國玉神大國敷神社小就ても清和天皇實錄貞觀六年
小阿波國名方郡人海直豐宗等賜姓大和連と見え又
名方郡人安曇粟麻呂と云人名の所見たるを以て證と
爲べし此等の例を以て推す時ハ信濃國の生島足島
神社必其安曇氏不の仕奉り社ありけむ亦

知べりくくろあり後人猶能定てより又神名式小
能登國能登郡能登生國玉比古神社大同類聚方小能
登藥能登生國玉比古之家傳方と有る古の下小神社
祝あどの字脱たり可し和名抄郷名小能登郡神戶此のよ
有り此神社の神戶あり可りむ諸生國神も生國魂神と略けり
申せり其生國玉比古神如也とも稱奉りハ殊小委
き者ありて此小能登の國名を冠て申せりハ此國を
造りて御在り坐ける時の國魂を祭祀しけむ事上
六下小注る某大國魂神小例を合せ考ふ可き者あり
諸此國の事ハ傳廿七卷七十二下小注るが如く上
古ハ一の島國ありて有りを氣多大神初て一國成

△羽咋郡奈言美比
咩神社今阿津見
村い云小坐例の
安曇い云事あり
可りれハ上件い云
事共い合り

日本の書紀傳二十九

○百十八

給へる由ありし上百三丁引る一本一宮記小天治
玉命と書し越中國射水郡氣多神社を社記小天治玉
命と云々ハ共小生國玉命を誤れり由己小注カ如
一儲其名勝注云々物小氣多神社本殿ハ大穴持命奥
殿ハ素戔鳴尊稻田姬命あり頂社ハ大穴持命石像あり
神代ナリ鎮坐せり又満汐珠有り奇瑞有る靈顯あり
大祭ハ二月初午小能登生國玉北古神社ハ神幸有
て歸り給ふ云々云々然る時ハ氣多困ハ其主神
少て渡り給ひ此ハ其荒魂ありて御在り坐を以て其
大祭ハハ必神幸成り給ふ御事と見えたり此等の
事共を考合せて上件生島神足島神生國神足國神又
ハ生國魂神咲國魂神又此生國玉北古神と申せり共
小大國魂神ありて渡り給へる
御事を曉り明り可カなり
○兵主神と申すハ
千戈神の亦名ありて渡り給へる由己小上七十小且
小書せり猶委り明りめ奉りむハ先兵主ハ
都波母能奴斯と訓て謂ゆ御父大神より事依り授

奉り給へる生大刀生弓矢を以て彼八十神を退治
させ給ひ又大倭神社注進狀小傳聞八十戈神者大己
貴命以廣茅為狀秋撥平豐葦原中國之邪鬼是時大己
貴命号曰八十戈神と有ハ此一書ハ大己貴神中乃興
言曰夫葦原中國本自荒芒至及磐石草木咸能強暴然
吾已摧伏莫不和順遂因言今理此國唯吾一身而已と
御言擧為させ給へるが如く兵器を執りて荒根神を
摧伏せ給へる是即大國主神と御在り坐す所以是ふ
れハ兵主神と稱奉り即此天下を主領り御在り坐
り謂ありけり其注進狀小此矛亦上古在天皇大殿之

内其藏齋爲八千戈神之神躰と有ハ彼倭大國魂神の
瑞之八坂瓊と共小皇宮小御在し坐けり古傳あるが
猶上小己小注るが如く天璽と共小相並び御在し坐
けりありけり其ハ大倭本記小天皇之初天降來之時
共副護齋鏡三面子鈴一合也と有る一鏡ハ天懸太神
と申して伊勢神宮の御あり一ハ國懸太神と申して
日前宮の御あり一ハ御食津神と申して豐受宮の御
あり由傳二十七十ハ八十小注し奉るが如く諸其子鈴と申
すハ同記小今卷向穴師社宮所坐拜祭太神也と有ハ
即神名式小謂ゆる城上郡卷向坐若御魂神社大月次
相嘗新

△後小彼大和社の
跡ハ狹井社ありが
如く其舊地ハ御
聖と留め給

嘗と有る此御神の御事あり然る小垂仁天皇廿五年
御紀一云小大倭大神の御事を定神地於穴磯邑と有
り然して注進狀小所謂大市長園岬今狹井社地是也
と有れば大倭大神ハ其穴磯の内あり狹井地ハ御在
し坐けむを又式小同郡穴師坐兵主神社名神大月次
相嘗新嘗
と出たれば本より八千戈神の御在し坐けりハ別
地ハ有る△後小大和社ハ合せ祀りけりありけり然れば此八千戈神と共小子鈴
も右の(海)崇神天皇六年小宮外小出させ給へり小こ
ろ其ハ大和志心小
此御神の御ハ有けり今此兵主神社を申小若御
魂神社を右小穴師大兵主神社を左小三社を合せ祀

△兵主神社は穴師
坐り有也此小ハ
穴師の云々ハ
本より此地の神心
御在坐す謂ふ
らりて

△美日社記小若宮
外院の兵主明神
と八十牙神也云々

云々云々清和天皇實錄小貞觀元年正月廿七日甲申
奉授大和國從五位下勳八等穴師兵主神從五位上
所見たり 此大兵主神社ハ素戔鳴尊少て渡り給ふ
可き事傳廿八卷九丁云云是神代より
古跡見ゆ大和志小昔在穴師村東弓月嵩今遷在穴
師神社左と云々是より穴師の地名ハ已貴ありむり
此兵主神社の御事を神名帳考證小兵主神者謂素戔
鳴尊也諸神記以為八十牙神未為至當通考舊事紀曰
素戔鳴尊乞食物於大御食都姬神共云々因之考神名
帳其證七也大和國城上郡穴師坐兵主神社上載大神
大物主神社下載卷向坐若御魂神社大倭本記曰御食
津神今卷向穴師社所坐據舊事紀文一山西地祭素戔
鳴尊與御食津神是一同捨代神社穴師大兵主神社捨
代是食神也是亦意同非八十牙神也其二云々云々
以下共小七證を擧げたり也皆共小
大小此所小委一々々々説あり又和泉國和泉郡
泉穴師神社二座兵主神社此三社ハ右の大和國穴師

社を遷奉たりあり可し其穴師神社を和泉志小社家
傳云天忍穗耳尊考幡千千姬命二座也と有ハ四神出
生章第二一書小生稚産靈此神頭上生鬘與桑臍中生
五穀と有と玄蕃寮式小凡新羅客入朝者給神酒其釀
酒新之稻云々和泉國安那志一社云々各卅束送住道
社之所見たり此事小依て天忍穗耳尊誤り其小就
て今一座を強て其右神小推當たりありめとも實小
ハ彼卷向坐若御魂神社を祀祭たり事右の誤を正し
て知べし其一座ハ謂ゆる穴師坐兵主神社の御神不
らありて今一所別小兵主神社坐ハ同神を別地小祀り

ふめり此社の神階の御事ハ物小所見ざれども其穴
師神社ハ續後紀小美和九年十月辛酉朔乙巳奉授和
泉國無位穴師神從五位下三代實錄小貞觀七年二月
廿七日 授和泉國從五位下泉穴師神從五位上同
六月朔日授和泉國從五位上泉穴師神正五位下同十
年二月廿一日授和泉國正五位下穴師神從四位下
有有姓氏錄和泉國神小穴師神主天富貴命五世孫古佐
麻豆知命之孫也有此天富貴命ハ古語拾遺小謂
中々太玉命の孫あり天富命あり可き由己小傳十九
二百二小注リ古小ハ神主小ハスハ著姓を附置
十七下

穴師神美和伊賀國
阿保郡元石神社一本
石作師仲亂國多氣
郡穴師神社若狹國
赤松郡阿奈志神社
伴信及小若狹國官社
赤松郡志三山王祠在案
明村社家説曰天德二
年戊午創建奉天正貴
命三有リ是亦穴
師共主神ハ八十神小
坐一證あり

許の御事ありければ大和國ある小継てハ甚しく
榮之させ給へるありけり或説小和名抄郷名小和泉
美下泉と有り社号の泉ハ地各あり可一泉穴師也
唱ふ可さありしと云るハ然る事あり但右小引共小
唯小穴師神のここを以思ふ小大和國あり穴師
神ハ和泉國小在一坐す由り泉と冠ふせ申す
小有て一然水と右泉郷上下二参河國賀茂郡兵
日中不必在一坐む事云と更あり参河國賀茂郡兵
主神社本國神名帳小正五位下兵主天神坐賀茂郡と
所見あり姓氏錄大和國神小賀茂朝臣大神朝臣同祖
大國主神之後也大田田根子命孫大賀茂都美命一名
大賀茂足奉齋賀茂神社也有此郡小由有一氏族あり
ハ此氏人の祀あり可一又近江國野洲郡兵主神

社名神 諸神記小建仁之度正一位神也此神八十矛神
云云と有ハ決メテ古傳ありし彼元師坐兵主神社
の古説小合ニ由上 七十八丁 小注カ加一又神祇正
百十八丁
宗ハ大國玉命也人皇三十代欽明帝御宇鎮座秘説
曰天照太神也云々大國玉命云々然ニ事カ
天照太神ニ申事ハ次小云々因幡國佐味乃兵主神
社ニ民部省圖帳ハ然所見ナレトモ不審一ニ事
あり若クハ上小引テ大倭神社注進狀小彼廣矛ノ御
事カ此矛亦上古在天皇大殿之内見テ皇太神ノ
御ト共小御在シ坐ツレハ其事ナリ然誤傳ナリ一省

小ノ有ベキ 又和名雅ノ大國玉命ニ書一 神社啓蒙小ハ兵主在近江國野洲郡所祭
大國玉命也と書一ニ按當社者大己貴命之鎮坐勿論
歟祭祀之日以干戈弓箭奈七社神輿而從者又表軍旅
之威儀也云々 或書小奈神一處 今所傳七座也所謂喪當宮七名歟
云々然ニ事カ何カ小一ニ素戔嗚尊カ
御在シ坐オト所見ハリ三代實錄小貞觀四年正月
廿日 授近江國從五位上勳八等兵主神正五位下
同七年六月十四日授近江國正五位下勳八等兵主神
從四位上同八年十二月廿六日 授近江國從四位
上勳八等兵主神正四位下同九年二月廿七日 授

近江国正四位下勲八等兵主神正四位上同十六年八月四日
授近江国正四位上兵主神從三位見由
右の諸神記小建仁之度正一位神也有ハ園大曆小
據小天下諸神增一階の事有以計ふ小天慶三年
正三位永保元年從二位永治元年正二位治承四年從
一位元(慶)曆二年正一位小水心已小建仁以前の事小
少けり紀略小天延二年五月七日近江国解日兵主三
上神社自去三月打大鼓并鉦之音經日不絶仍有御下
只有り又伊香郡兵主神社赤見神社並出給へり和名
抄御名野洲郡明見 安加美 在南北 云事小所見ハ此

兵主神社右ノ野洲郡別社也 考證小近
郡兵主神社今俗此兵主曰南曾村天王社世以素戔嗚
尊称牛頭天王土民所傳可亦証焉是三同伊香郡兵主
神社赤見神社赤見與若御言通是四云此也 南曾
村天王栗太郎 不在式外あり 神社啓蒙小大宝社
祭神一空素戔嗚尊疫神也 大宝年中降見之神俗故
称大宝天王其影向之老杉于今存 有兵主神社
其由来同ト 又赤見 若御 通云 云 南曾
ぬ説多り此神推産靈神 申 武須毘 言 こ り
主ふ け れ 若 御 の 言 を 以 て
如何ハ 其 同 神 云 可 也 又丹波国氷上郡兵主神
社今黒井村兵主大明神と申して專醫藥の事小御靈
を幸給ふ神小御在坐世 名 高 口 御 社 ト 渡
世給へト 團 大 己 貴 神 御 同 体 ヲ 八 千 文 神 ト 坐 分 故
ふめ り 和 名 抄 美 和 賀 茂 石 生 伊 曾 の 郷 名 有 り 又 式 小

大生部直三郎
云人名出り

出雲神社坐あは必故有る可事上三十一出雲神社
ノ所小考合す可し又但馬國朝來郡兵主神社坐小朝
來石部神社乃我石部神社有ハ姓氏錄左京神別大物
主神命男久斯比賀多命之後也續風土記不在我倉村云兵主大明神三ノ
可く又養父郡兵主神社更杵村大兵主神社大同類聚
方小志口藥又養父郡藥但馬國養父郡更杵村大兵主
神社兄主一顛刺麻呂傳方一有ハ一大己貴神一
似著一事あり但更杵更杵何れハ是あり少也又出
石部大生部兵主神社皇極天皇御紀大生部多續記云
田郷久斗村祢鳴瀧大明神一云少又城崎郡兵主神社

兵主神社二座と有て當國小御在一坐す所凡て八社
ありハ當昔八千戈神と聞え一時ノ御迹あり一由り
るふあり且此國小大己貴神ノ故事有て其ハ傳廿四
下小云ハ合せ讀て考ふ可き事共あり又因幡國
巨濃郡佐味乃兵主神社民部省圖帳小佐弥乃兵主大
神宮神貢九十八束有余天仁二年己丑二月鳥羽新帝
震哀望奉神貢神靈天照太神也と有り然れども天照
大神ノ御事ハ上小近江國兵主神社ノ所小註一如
く混ねたる傳説あり此一ハ鳥羽天皇御世より
其ハ千戈神ノ相殿神と被祭たりと見む可く

△古風土記
○磐郡安師里
右称安師者係
元无神之戸託
仁奉故号元師
と云事七見内

此社の御事傳三下百二云一

又同郡許野乃兵主神社と云も見也又播磨國鎭磨
郡射楯兵主神社此御社の御事ハ傳廿七七十上五
小引る假字風土記と云物小大已貴命五十猛命と云
然る時ハ其多可郡兵主神社ハ大已貴神小渡りせ
給ふ可事申すも更あり又壹岐島壹岐郡兵主神社
名神ハ壹陽略志と云物ハ在河北村正一位兵主神社
と云ふ祭神大已貴命と有右の如く諸國小兵主神
社として立せ御在り坐ハ何れも大已貴神の方あり小
て素戔嗚尊と申すハ一所なる御在り坐ざらるを以て
上件云々八十戈神ありて渡りせ給へる御事を曉り可

者あり上小引る考證小但馬國養父郡盈園神
隱岐國水若酢命神社以上二國祭祀意同大和國是五
播磨國鎭磨郡射楯兵主神社二座今廣峯社在鎭磨郡
是子相傳山城國祗園社元自廣峯所移來也射楯素戔
嗚尊帥子五十猛神到新羅國五十猛與射楯言相談
出雲國韓國伊太志神社是六壹岐島壹岐郡住吉神社
兵主神社舊事紀云素戔嗚尊所知海原兵詔寄給兵因
此言以素戔嗚尊配享海童神則兵主神者素戔嗚尊也
明兵是也有れども盈園と水若と言同トウらざり又
廣峯と射楯兵主神社ハ別あり事傳廿三卷三百二
十六下小注らが如く又住吉神社と兵主神社ハ更
小何の由も無事ありハ○八重垣大樹神と申す此
御名大國家譜小出たり事傳廿三二百五十五下小云
らが如く儲其八重垣ハ此正書小素戔嗚大神の御事
を書せりハ然後行覓將婚之處遂到出雲之清地焉乃

言曰吾心清清之於彼處建宮と有る其時の事を古事
記小茲大神初作須賀宮自其地雲立騰尔作御歌其歌
曰夜久毛多都伊豆毛夜幣賀岐都麻基微尔夜幣賀岐
都久流曾能夜幣賀岐哀と有て其地より立騰り雲
を八重垣に見成し御在し坐して今其作らせ給ふ外重
の御垣の御事を詔給へり然して御紀小又乃相與遣
合而生兒大己貴神因勅之曰吾兒宮首者即脚摩乳夫
摩乳也故賜号於二神曰稻田宮主神と有て其大神の
須賀宮を此大己貴神の宮と爲て右の二神をして御
母子諸共小傳き聞えさせ給へり詞林採要抄小昔歌

河上乎摩乳脚摩乳夫婦神女稻田姫佐草女社と申所
小祝奉り社あども無く八重垣とて引離しと有之佐
草女明神と申あり大社の御歌とて日も暮ぬ佐草女
の刀自早く出よ心の暗小我迷ふあり佐草女の刀自
とハ稲田姫とくや子細可尋之又後撰集歌小今來む
と云し許を命めて待小消ぬ可き佐草女の刀自下略
有ハ後小此稲田姫命を移して意宇郡大草郷佐草村
小八重垣明神と祀り又其地名を以て佐草女神と申
す所以小後歌を交へて云説あるが此小就ても其本
の須賀宮小八重垣を称て名高かりし事を見ら可し

右の大社の御歌云を素戔嗚尊の御と爲るハ非
れども此歌小日も暮ぬと云ひ早く出よと云ひ心の
暗小我迷ふりとの有ハ心有べし山家集ハ水泳淀む天
の川霧浪掛て月をハ見るや佐草美の神と詠て天漢
を事を云ふ小就て考る小神名式小意宇郡賣豆紀神
社を三代實録ハ女月神との有ハ即此稻田姫命の御事
あり可き由傳サ三卷四十七下小注々小思合す可
次あり後撰集のハ素戔嗚大神との此女神との善ハ
く御在し坐て相語る相聞あり大樹神ハ大城神と
御意味を詠る相聞あり
申す義あり傳廿四 十 小注々如く此第一一書小
清之湯山主三名狹漏彦八島篠神又ハ清之繫名坂輕
彦八島牟命あり申す亦名御在し坐て此清之湯山宮
ありて天下を主領き御在し坐るハ其由を以て八重
垣大城と續けたる急の御名小御在し坐めり又出雲

風土記ハ大原郡城名樋山郡家正北一里一百歩所造
天下大神大穴持命爲伐八十神造城故云城名樋山也
と有ハ八十神を伐せ給りむ爲ハ大城を造りせ給へ
るあり儲城を伎と訓ハ垣の同言ありめり字鏡集ハも
名義枚ハも城を加伎と訓ハ是あり故思ハ小同郡來
次郷郡家正南八里所造天下大神命詔八十神者不置
昔垣山裏詔而追廢時此處追次坐也故云來次と有ハ
御垣内小置給ハハハ爲て追廢給ハハあり又意宇郡
母理郷郡家東南廿九里一百九十歩所造天下大神大
穴持命略但ハ雲立出雲國者我靜坐國書垣山廻賜而

玉珍置賜而守詔故云文理神龜二年有也青垣山の
圍の地を大城と爲させ御在り坐す謂あり又古事
記ある御父大神の御言小意禮爲大國主神亦爲宇都
志國玉神而其我之女須世理毘賣爲嬪妻而於宇迦能
山之山本於底津石根宮柱布力斯理於高天原冰撮多
迦斯理而居是奴也詔給へるも今迄の須賀宮を改
めて此大城小住せ御在り坐せとあり又天孫降臨章
第二一書高皇產靈尊の大己貴神小令宣給へる御言
小汝應住天日隅宮者今當供造即以千尋榜繩結爲百
八十紉其造宮之制者柱則高天太板則廣厚と有る造宮

の御事とハ申あがり此も大城あり可き事次ハ又供
造百八十紉之白楯と有るを以て其武備を設させ給へ
るを見べし又神武天皇三十一年御紀ハ大和國の故
事ハ載るれなる中ハ復大己貴大神目之曰玉牆内國
と有ハ其前紀ハ東有美地青山四周と有ると同義あり
事ハ然る物なり又其昔垣山隱れを以て大城ハ見
成り給へりとも云べし紀略延曆十三年十一月新京
小遷りせ御在り坐けり時の詔ハ此國山河襟帶自然
作城因斯形勝可制新號宣改山背國爲山城國と有る
右小玉牆内國と詔給へるも其意味の甚能似たり

けり事あるをも考合す可き者ありける一偕八重垣大
樹神の申奉れりハ天下小在ゆり千萬國の大國主神
小渡し給へり故小其大宮内重中重外重小ハ
重の御垣を巡り給へり大城を常宮と爲せ住せ御
在り坐す義の御名あり是が其大國主大神小坐す所
以りハ有けり然るハ古事記小大國主神亦娶神屋楯
小謂中り高津姫命の御事ありて渡し給へり神屋
ハ其御在り坐す宮室を申り楯ハ借字ありて高あり事
傳十五卷四百五下小云り如く又出雲風土記小神
門郡多伎御郡家南西廿里所造天下大神之御子阿陀
加夜怒志多伎吉比賣命坐之故云多吉り有ハ其御女
下照姫命ありて坐り阿陀加夜ハ大高屋あり怒志ハ主
あり多伎吉ハ高城あり天孫降臨章小推國玉り有と
以て女神小ハ御在り坐れども其勢り大小坐を思ふ

合其百八十紐の事
百結八十結三而
二書一又百八十神
等集坐云神百
十日喜識あり見

可一偕八重垣大城神と申りて大國主神の謂あり神
屋高比賣命と申りて其大神の后神の謂あり大高屋
主高城比賣命と申りて其公主の謂ありを彼是思合
さバ自然小其意知りれむり又大樹ハ借字ありて
大城あり事を○其子凡有一百八十一神ハ地神本紀
小載りも此小同ト古事記御天降段あり大國主神の
御言小亦僕子等百八十神者即八重事代主神爲神之
御尾前而仕奉者違神者非也と有る百八十八天孫降
臨章第二一書小即以千尋拵繩結爲百八十紐中又供
造百八十縫之白楯と見え又孝德天皇御紀小臣連國
造伴造百八十部あり有る類ありて通證小謂ゆり百八
十衆多之稱と云り是あり斯り小此の百八十一神ハ

百八十一神と有て餘の一神をも加へ收たれば此ハ
正しく其數を合せて云わたり者ありけり其ハ神
名秘書小神祇譜天圖記曰上國作大己貴神此神者素
戔鳴尊孫子天之冬衣神子也與少彥名神共戮力一心
經營天下爲顯見蒼坐生及畜產則定其療病之方又爲攘
鳥獸昆虫之災異則定其禁厭之法凡此神生子一百八
十一神以尔五柱爲珍子而天下四方國人夫等令咸蒙
恩賴此之縁也と有ハ御紀舊事紀を取て書々物ありめども
一百八十一神と云ハ其正數あるを以書せ々者あり
ハ衆多の義の云ふ百八十神と此ハ同ト云ふ

今故再思ふ小右の孫
子ハ子孫の義にして
此も亦六世の傳ふ
る也其ハ中聞と略
して天之冬衣神子
と云ふあれが此ハ古
事記と同一傳説
ありけり

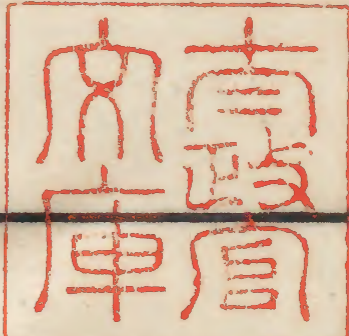
事論を待ず 古史第七十六段徴の右の文を引て其
世孫あるを疑ひて四世孫小定のたり文ハ國作大己
貴神此神者素戔鳴尊孫子天之冬衣神子也と有ハ據
て冬衣神を須佐之男命の孫ある事を知り其御父ハ
於美豆怒神あれハ如此ハ定めつと云ハ傳ハ四卷
三十七下小己小辨へたりが如く甚ハ其ハ偽と云べ
右の孫字ハ上小屬て其大己貴神ハ素戔鳴尊孫と云
事あり子字ハ下ハ續きて天之冬衣神ハ素戔鳴尊子
あり由りて漢文の例ハ國作大己貴神者素戔鳴尊
孫天之冬衣神子也と書べき格ありて佗ハ多ク事ハ
るを孫子を續けて比古美古と訓たりすり然ハ安
事ハ出來り者あり但文格を正して云時ハ右の
如くあり大己貴神ハ此正書の傳の如く直ハ素戔
鳴大神の御兒ハ御在り坐せハ右ハ孫と有ハ古事記
の六世孫あり共ハ取ありけり況て四世孫
あど云私説ハ齒牙ハ以尔五柱爲珍子而より以下ハ
係りけり足さるあり

此記者の係たる文ありめり尔五柱を今計へ見ら小御

紀つてハ味耜高彥根神事代主神下照姫亦名高姫亦名推國王
の三柱神代紀小見え崇神天皇七年御紀小大物主大神
の御子小奇日方天日方雄略天皇四年御紀小一事主
神の御名有りて併せて五柱の數小合りと雖も此小
ても有べく木保神亦名又古事記小御井神此ハ八上比賣
命小娶て令生給へるなり次小阿遲鉏高日子根神次
妹高比賣命亦名下光比賣命此二柱ハ御母多紀理毘賣
命あり次小事代主神御母ハ神屋推比賣命あり又娶
八島牟遲能神之女鳥耳神生子鳥鳴海神我子有有る此ハ次
々疑ハ一けねハ除きて其御天降段建御名方神と

時三
此

有り此小擲御方命一言主神二柱此有れとも其を除きて
趣ありども其少とも有べく又又地神本紀小ハ大
己貴命先娶坐宗像奥津島神田心姫命生一男一女兒
味耜高彥根神妹下照姫命次娶坐邊津宮高津姫神坐
一男一女兒都味齒八重事代主神妹高照光姫大神命
次娶稻羽八上姫生一兒兒御井神亦名木股神次娶高志沼
河姫生一男兒建御名方神と有る此ありハ六柱あり
今此を概て計ふる小先此大國主神の御子等の中小
味耜高彥根神御在坐て其和魂ハ事代主神小坐一
荒魂ハ一言主神小坐て此三神の御名別ニ小在れど



も共小一神の御上あり事傳十三百五十四丁十五二百十八丁小
 注ろが如くあれは此を一柱と數ふ可一次小下照姬
 命亦名高姬命を地神本紀小別神小舉たれども是一
 柱あり次小御井神建御名方神を合せて四柱あり今
 一柱ハ出雲風土記出雲郡美談郷所造天下大神御子小和加布都怒志命
 と所見たれども此ハ經津主神小對へる御名あれハ
 別小所由有べく意宇郡山代郷小所造天下大神大元
 持命御子山代日子命の御名有れども珍子と申す可
 き狀ありざれば此神社譜天圖記小尔ソノイハヒテ五柱と有ハ右
 等の訂正あり及ばずして常の如く味耜高彥根神

明治七年七月廿五日校合之 菅政友

